

1. 題材設定の理由

卒業を控えた3月。卒業式の準備を進めながらも、中学校進学への不安は次第に大きくなっていく頃。「中学校の生活を知ろう」で、中学校の生活を知り、自らを改善しようと目標を立てたものの努力が継続できず、目標のない生活を送る児童もいると考えられる。

そこで、再度、自らの決意について考えさせ、目標実現に向けて着実に努力する姿勢をもたせたい。

2. 指導のねらい

自分の決意と資料を見比べて考えさせ、具体的な目標を立てることで努力を継続しようとする姿勢を育てる。

3. 指導計画（全1時間）

本時	・どんな中学生になりたいかをイメージしながら、努力の継続について考え、決意し努力する気持ちを育てる。
事後	・書写や卒業文集等で、目に見える形で決意を表明できるようにする。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・前の学習で考えた決意を振り返り、現在の自分の様子を見つめ直す。	◎「中学校の生活を知ろう」で立てた目標や決意について、グループで交流し合う。	・決意どおりに生活していない児童が多いと思われる。続けている児童の思いを発表させるなどして、続けられなかった児童に理由を見つめさせたい。	ノート① ノート6-13 「中学校の生活を知ろう」(p56～57)
課題：願う中学生の姿に向けて努力し続けることを宣言しよう。				
中心的活动	・「ぼくの決意」を読んで、自らの決意を改めて確認し、具体的な努力を発表することができる。	◎②の作文を読んで、思ったことを発表する。 ・自分の弱いところを知って直そうと努力するところがえらいと思う。 ・中学校での2年生レギュラーという目標を立てているところを見習いたい。 ・毎日30分間ランニングするというのは大変だろう。 ・わたしも決意を実際に続けたい。 ◎自分の決意を再度書いて確かめる。特に力を入れることを1つに絞る。前の決意と変わってもよい。 ・家庭学習を毎日1時間は必ず行うことで、力をつけたい。 ・黙って汗が流れるまで掃除をすることで、ボランティアの心を育てたい。 ・縦割り活動や児童会の活動で、後輩たちを優しく導けるように心がけたい。	・自分と比べて、「ぼく」のがんばりについて意見を述べるようにさせたい。 ・努力の困難さを競うのではなく、個別の目標の良さを認める指導助言に努めたい。	ノート②
まとめ	・説話等により、努力し続けることの大切さを知り、行動しようとする意欲をもつことができる。	◎決意を行動に移している児童が、その苦勞やこだわりを発表する。適切な発表者がいない場合は説話を行う。	・小さなことの積み重ねの例が提示できるとよい。	

《説話例》 「もうすぐ中学生」

先生の友だちに、中学校に入ってみるみる学力をつけた人がいます。あとから聞いた話ですが、彼を変えたのは「1日10問」の家庭学習だったそうです。どんなに宿題がある日でも、数学（算数）の問題を毎日10問やり続けました。大晦日も元旦も、旅行に行った日でも、続けたそうです。1年間で3650問を解き続けたことが、彼を「数学博士」にしたのです。小学校では、宿題忘れをよくする子だ

ったのが、中学校の数学の授業では、先生をうならせるほどの子になったのです。たった1日10問。しかし、毎日続けることは大変なこと。今日、こうして決意をみんなの前で発表したのも、「宣言したから続けんとかっこ悪いな」「みんなが見ている」といった思いが、続けることの支えになるようにと願ったことです。弱い自分を強くするために、先生や友だちの力が必要なら、どんどん言ってください。みんなで助け合って、がんばりましょう。「〇〇博士」をめざそう！